

公表

児童発達支援 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハートやまぐち		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 6日		令和6年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 16日		令和6年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1 (子ども及び保護者)の満足度		子ども第一の精神で安心して過ごせる環境を提供している。 子どもたちが楽しく運動遊び身につけられるよう、プログラムを考えている。(幼児期の運動遊びは、基礎体力や動きを身につけたり、コミュニケーションの観点でも効果的)見立て遊びやごっこ遊びも大事にしている。	身の回りのことも楽しみながら出来るよう、更に工夫を重ねてまいります。
2	清潔で心地よく過ごせる生活空間 子どもたちの活動に合わせた空間	スタッフ全員による日々の安全点検や、日々の清掃・除菌を行っている。	安全性だけでなく、子ども達の情緒面に配慮しながら、落ち着いて過ごせる環境づくりに努めます。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会の未開催	事業所が開設して一年である。	保護者お一人ひとりのご相談には応じてきましたが、近く「保護者会」を開催したいと計画中です。
2	家族プログラムの機会	個別面談や日頃の連絡以外の家族支援の未実施	保護者のニーズも確認しながら、研修会などの情報提供を行っていきます。スタッフも情報収集に努め、研修を重ねる等してスキルアップを目指します。
3	既存の非常時マニュアルや避難訓練の実施について、保護者への周知が不十分である。	緊急時対応や避難訓練について、詳細まで保護者に伝えきれていない。	契約時や面談時に各種マニュアルの説明をする。 年に数回実施している避難訓練について、実施後の報告もしていきます

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハートやまぐち		
○保護者評価実施期間	令和6年12月6日		～ 令和6年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和6年12月16日		～ 令和6年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	(子ども及び保護者の)満足度	子ども第一の精神で安心して過ごせる環境を提供している。 からだを使った遊びを中心とした活動を行い、その中で身体の 使い方や人との関わり方を学べるよう支援している。	子ども一人ひとりのニーズや特性に合わせて、楽しみながら 日常生活技術の向上を目指すプログラムを提供する。
2	清潔で心地よく過ごせる生活空間。 子どもたちの活動に合わせた空間。	スタッフ全員による日々の安全点検や、日々の清掃・除菌を 行っている。また、子どもたちの状態や成長に合わせて、部屋 の配置換えを試みるなど工夫している。	安全性だけでなく、子ども達的情绪面に配慮しながら、スタ ッフが相談し、部屋のレイアウト等の変更も考えていく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会の未開催	事業所が開設して一年である	個々のご相談には応じてきましたが、近く「保護者会」を開 催したいと計画中です。まず、第1回目の保護者会を開催し、 保護者の方々のニーズやご意見を伺いながら、次に繋げて参 ります。
2	家族支援プログラムの機会	個別面談や日頃の連絡以外の家族支援の未実施。	保護者のニーズも確認しながら、研修会などの情報提供を 行っていく。スタッフも情報収集に努めると共に、研修を重 ねてスキルの上を目指す。
3	既存の非常時マニュアルや避難訓練の実施について、保護者へ の周知が不十分である。	緊急時対応や避難訓練について、保護者に伝えきれていない。	契約時や面談時に各種マニュアルの説明をする。 年に数回実施している非難訓練について、実施後の報告もし ていく。

公表

児童発達支援 事業所における自己評価結果

事業所名		チャイルドハートやまぐち		公表日		令和7年 2月 15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		1階の広いフローリングの部屋(プレイルーム)で運動、2階には学習スペース・おやつを食べるスペースも設けている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	配置基準を順守した配置を行っている。	配置基準を順守した配置を行っています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		2階建ての構造なので、安全面から階段の昇降は職員と一緒にする取り決めにしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		日々の清掃・アルコール除菌をしている。皆で話し合いながら、こどもの活動に合わせて、より良い空間づくり・配置換えを行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		職員の目の届く位置に、落ち着くための空間を設けている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		毎朝のミーティング(ノートに記録)で情報共有をし、議題についても明確化している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		アンケート結果を全職員で共有し、改善点についてすぐできること(内容によっては代替案)を検討している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		日々のミーティングを欠かさない。また、管理者は普段から職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			苦情担当窓口(責任者)を設置している。	第三者評価事業についての取り組みを進める。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	7		本部研修や外部研修に参加し、研修報告を実施している。(情報の共有)		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		ホームページにて支援プログラム公表		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		一人ひとりに沿った個別支援計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2		標準化されたアセスメントツールは使ってはいないが、病院の診断等を踏まえ、一人ひとりに合った支援方法を見立てていく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		職員全体でアイデアを持ち寄り、全員で活動プログラムを作成している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		職員個々に情報収集し、皆で活動プログラムを作成している。長期休みは、消防署や警察・博物館見学等、地域資源も活用している。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		集団活動内容や、個別の課題・活動について、1カ月ご毎の話し合いとミーティングで確認している。		

関係機関や保護者との連携	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		活動内容や、進め方について、事前に全職員で確認し、内容によってはシミュレーションを行って改善等して支援している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		その日に気になったことはその日の内に報告している。また、送迎の関係等で職員が揃わなかった際には、翌朝に共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		当日の夕方または、翌朝には支援の記録をして、支援内容を振り返り、支援計画に反映している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2		児童発達センターや相談事業所との連携(引継)は行っている。相談員さんと保護者の方を通して小学校や特別支援学校の情報共有もしていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。					
31	(31は、事業所のみ回答)					
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	1			
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		7		感染症の時期を外して、地域の子どもも集まるイベント等の参加も考えてみたい。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			ご利用時は、送迎時と毎回連絡帳の形で報告・連絡をしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2		面談等で保護者のニーズも確認しながら、研修会等の情報提供も行っていく。スタッフも個々に情報収集に努め、皆でスキルアップしていく。	
保護者への	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		3		開所して1年経つので、早い内に保護者の方が集まれる場を設けたい。(計画中である)

説明等	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		保護者との個別LINEを使って、活動の様子等の発信をしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1		地域の方へのご挨拶は、欠かさず行ってきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		職員研修や委員会を開催し、訓練も行っている。(消防署への通報訓練もしている)	各種マニュアルの内容や、訓練の結果報告を改めて行う。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		初回面談時に詳しく聞き取り、共有している。また、発作等緊急時の対応は、書面を確認しやすい場所に置いている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		食物アレルギーについては、アセスメント時に丁寧に聞き取り、職員で共有している。クッキングの内容も配慮している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		全職員に周知し、事後対策を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		委員会や研修会を開催し、日頃から職員間で意識している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		アセスメント時に説明している。		

公表

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

公表日 令和7年2月15日

事業所名	チャイルドハートやまぐち				
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	7		1階の広いフローリングの部屋(プレイルーム)で運動、2階には学習スペース・おやつを食べるスペースも設けている。	
	2	6	1	配置基準を順守した配置を行っている。	
	3	7		2階建ての構造なので、安全面から階段の昇降は職員と一緒にする取り決めにしている。	
	4	7		日々の清掃・アルコール除菌をしている。皆で話し合いながら、こどもの活動に合わせて、より良い空間づくり・配置換え等を行っている。	
	5	7		職員の目の届く位置に、落ち着くための空間を設けている。	
業務改善	6	7		毎朝のミーティング(ノートに記録)で情報共有をし、議題についても明確化している。	
	7	7		アンケート結果を全職員で共有し、改善点についてすぐできること(内容によっては代替案)を検討している。	
	8	7		日々のミーティングを欠かさない。また、管理者は普段から職員が意見を発しやすい雰囲気づくりに努めている。	
	9			苦情担当窓口(責任者)を設置している。	第三者評価事業について取り組みを進める。
	10	7		本部研修や外部研修に参加し、研修報告を実施している。(情報の共有)	
適切な支援の提供	11	7			
	12	7		ひとりひとりに沿った個別支援計画を作成している。	
	13	7			
	14	7			
	15	5	2		標準化されたアセスメントツールは使っていないが、病院の診断等を踏まえ、一人ひとりに合った支援方法を見立てていく。
	16	7			
	17	7		職員全体でアイデアを持ち寄り、全員で活動プログラムを作成している。	
	18	7		職員個々に情報収集し、皆で活動プログラムを作成している。長期休みは、消防署や警察・博物館見学等、地域資源も活用している。	
	19	7		集団活動内容や、個別の課題・活動について、一ヶ月毎の話し合いとミーティングで確認している。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		活動内容や、進め方について、事前に全職員で確認し、内容によってはシミュレーションも行い、改善して支援に臨んでいる。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		その日の夕方、送迎の関係等で職員が揃わなかった際には、翌朝に共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		当日の夕方または翌朝には支援の記録をして、支援内容を振り返り、支援計画に反映している。	
	23	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		管理者兼児童発達管理者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2		情報収集するとともに、地域の関係機関や専門分野等と連携できるよう、繋がりを持つ努力をしている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		送迎時、また、担当者会議などで情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1	ご家族を通じて連携していることが多いが、必要に応じて情報共有の場を設けている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1	今のところ放課後等デイサービスを卒業し、障がい福祉サービスへ移行した子どもはいないが、支援内容の情報を提供できる体制は整っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	6	1		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1	定期的な集まりに参加できない際は、オンライン配信を後日視聴するなどしている。	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		ご利用時は、送迎時と毎回連絡帳の形で報告・連絡をしている。それ以外にも、個別LINEや電話でのご相談にも応じている。	
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2		保護者が参加できる研修会や談話の場を設けられるようにしていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		個別LINEや電話でのご相談に応じながら、特別な事案があった場合には、相談員さんにも相談し、担当者会議に繋げている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		3		開所して1年経つので、早い内に保護者の方が集まれる場を設けたい。その際、今後、保護者の方々がどのような交流の場(例・研修会、茶話会)を望まれているかもご意見を伺って次に繋げる。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情担当窓口(責任者)を設置。今後もし苦情があった場合は、迅速な対応に努めたい。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	1	保護者との個別LINEを使って、活動の様子等の発信もしている。		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7				
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	日頃からお会いしたらご挨拶している。 また、節目には、お隣さんにご挨拶に伺っている。		
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		職員研修や委員会の開催をし、訓練もを行っている。(消防署への通報訓練もしている)	
		47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
		48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
		49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		食物アレルギーについては、アセスメント時に丁寧に聞き取りし、職員で共有している。 クッキングの内容等も配慮している。	
		50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
51		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7				
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		全職員に周知し、事後対策を行っている。		
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		委員会や研修会を開催し、日頃から職員間で意識している。		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		アセスメント時に説明している。			